生徒の教育的ニーズに応じた支援の在り方

～職場体験と修学旅行における不適応の軽減をめざして～

日南市立南郷中学校 教諭　宮田　美奈子
（前任校　日南市立榎原（よわら）中学校）

Ⅰ　はじめに

宮崎県では、平成２４年に「みやざき特別支援教育推進プラン」を策定し、本県独自のエリアサポート体制の構築や早期からの障がい理解促進などで、成果を挙げてきた。平成３０年１１月にはプランの改定がなされ、令和４年度までの５年間の取組方針が示された。

榎原中学校は、令和元年度の全校生徒が２２名の小規模校である。通常学級の他に、自閉症・情緒障がい支援学級、知的障がい支援学級が開設されている。令和元年度は、校長の学校経営方針に特別支援教育の視点である、「一人一人を見守り続ける」「多様な学びを支える」「社会との絆をつなぐ」を踏まえた内容が示された。そして、個に応じた学習支援体制の整備および「夢をつかむ学力」を育む教育の推進などの組織的な取組とともに、教師の指導力向上に学校として取り組んできた。

そのような中、職場体験と修学旅行を迎える２年生の知的障がい支援学級生が、それぞれの体験活動で不適応をおこさず、達成感や充実感を味わえるよう支援したいと思い実践を試みた。また、特別支援教育コーディネーターとして、校内や保護者との連携、関係機関との連携について取り組んだことを発表したい。

Ⅱ　知的障がい支援学級担任としての取組

１　実践計画

体験活動を軸に、学校行事も考慮して、その前後で自立活動等を意図的、計画的に指導した。実態把握や家庭学習の指導も学校行事に合わせて行った。

学　期	主な行事計画	実態把握	自立活動の指導	家庭学習の指導	授業実践
１学期	入学式 職場体験 定期テスト 地区交流会	・前年度の実態把握 ・保護者との話し合い	・ライフスキルチェック ・体験学習の準備と反省 ・学期反省	・テスト対策	自立活動
８月	夏休み	・変容まとめ ・保護者との話し合い		・課題対策	

２学期	小中合同運動会 文化祭 買い物実習 定期テスト 修学旅行	・保護者との話し合い ・変容のまとめ	・ライフスキルチェック ・行事の反省 ・体験学習の準備および反省 ・学期反省	・テスト対策 ・課題対策	国語科 生活単元学習
３学期	立志式 地区交流会 地区実力テスト 学年末テスト 卒業式	・保護者との話し合い ・変容まとめ	・ライフスキルチェック ・体験学習の準備及び反省 ・１年間のまとめ	・テスト対策	

２　実践内容

(1)　ライフスキルチェックによる自己理解と生活面・社会面スキルの向上

学級開きの時に、本人は１学期の目標として「できること分かることを増やしたい」と述べていた。その思いをもとに、「できることをふやそうプロジェクト」という自立活動の学習を実践した。ライフスキルチェックを定期的に実施し、自分が今できていることやできるようになりたいことを理解させるとともに、体験活動に必要な生活面のスキルの向上を目指した。

実践①「できることを増やそうプロジェクト　職場体験に向けて」

ねらい	主な学習内容
①２年生の学習の見通しをもつことができる。	学校生活の中でのＣ組としての動きを確認する。
②社会生活で必要なことを考えることができる。	社会生活で必要なスキルについて１０以上考え、今の自分を振り返る。
③自分に必要な家庭学習の仕方を考えることができる。	１年生の時の家庭学習の仕方を振り返り、効果的な家庭学習を理解する。
④ライフステージという考え方を知り、今の時期の大切さを理解する。	大人になるために精神的・身体的な成長が必要なことを知る。
⑤１学期中間の学校生活を振り返り改善することを見つける	校時程に沿って自分の生活の様子を振り返り、改善策を立てる。
⑥自分の良いところを探し、その良さを職場体験でどう生かすかを考える。	集団行動とコミュニケーションスキルについて自分の良いところをまとめ、職場体験を想定して自分の言動を考える。
⑦職場体験での自己紹介の仕方を知る。	電話のかけ方とともに先生方と園児向けの自己紹介の仕方を考える。
⑧保育園の１日の流れを確認し自分の動きを確かめる。	事前打ち合わせで分かったことをもとに、１日の活動の流れを考える。
⑨外遊びと中遊びを具体的に考え練習する。	自分の子ども時代を振り返り、具体的な遊びを考える。
⑩園児や先生との接し方を考える。	先輩からの手紙をもとに、接し方のポインを考える。
⑪お礼状を書く。	お礼状の形式に沿って体験で気付いたことを中心にお礼状を書く。
⑫交流教室の準備をする。	地区交流会の内容を知り、開会式の進行の練習をする。

⑬交流教室の反省をする。	当日の自分の行動を思い出しながら、反省する。
⑭１学期の反省をする。	４月に立てた目標に沿って、１学期の生活を振り返る。

ア　成果

○　ライフスキルチェックシートを本人に合わせて文言を工夫したことでできていることとそうでないことを本人がはっきり理解でき、できないことを頑張ろうという意欲がみられた。

○　職場体験学習にあわせた自己紹介の練習や電話のかけ方の練習、園児や先生方との接し方の練習を通して、体験への意欲が高まり、実際の体験では達成感を感じていた。

○　交流学級での係活動は自分から責任もってする様子がみられた。

イ　課題

○　交流学級の目標である「当たり前のことを当たり前にする」について学校生活での「当たり前」とは何なのかが理解できていない。

○　清掃の手順や給食当番手順など、自分の判断ですることがあり、まわりに迷惑をかけたことがあった。

【写真１　読み聞かせの様子】

【写真２　お礼状の作成】

実践②「できることを増やそうプロジェクト　修学旅行に向けて」

ねらい	主な学習内容
①２学期の見通しをもつことができる。	２学期の行事を確認し、２学期の目標を考える。
②心のチェックリストで自分の特徴を知り、人との接し方を考える。	「エゴグラム」を用いて対人関係の自分の特徴を知り、それを活かそうとする。
③仲間関係スキルチェックをして、人との接し方を工夫することができる。	毎日の奉仕活動や行事において望ましい行動を考える。
④買い物実習に向けてバスや列車の乗り方を考え、行程表を作ることができる。	班別研修で使用するバスや列車の時刻表の見方を知り、目的地に行くための時間を見積もる。
⑤レシートの見方を知り、おつりの少ない支払い方法を考えることができる。	レシートにはどんなことが記載されているかを知り、無駄のない支払い方を考える。

⑥買い物実習の報告をする。	行程表に沿って実習の反省をする。また、レシートを使って収支報告書を作成する。
⑦修学旅行の持ち物を考える。	しおりにある修学旅行の持ち物リストに沿って、何をどのように持っていくかを考える。
⑧期末テストの勉強方法を考える。	期末テストの日程に沿ってどの教科の何をいつ復習するか、計画を立て、実行する。
⑨修学旅行の持ち物を確認する。	持ち物リストに沿って準備できた物とまだできていない物を確認し、いつまでに準備するかを考える。
⑩修学旅行の反省をする。	修学旅行の３つの目的に沿って、自分の行動を振り返り、感想をまとめる。
⑪２学期の反省をする。	学期始めに立てた生活面と学習面の目標を具体的に反省する。また３学期に向けての目標を考える。

ア　成果

○　運動会での応援や文化祭での劇発表など、学校行事では昨年より積極的に行動していた。

○　修学旅行では班員と協力して自主研修をやり遂げ、いつ、どこで、どれだけ買い物をするか自分で決めて、予算内で買い物ができた。

イ　課題

○　修学旅行での買い物の収支報告をさせたところ、金額が合わなくて苦労した。生活に必要な計算力がまだ身についていない。

○　修学旅行で買った物やもらったパンフレットなどの整理整頓がうまくできていなかった。

(2)　授業実践例（自立活動・国語科・生活単元学習）

①　自立活動指導案

ア　単元名　　職場体験の準備をしよう

イ　本時の目標

○　職場体験先である保育園の一日の流れと体験内容を理解する。

ウ　学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	形態	指導上の留意点	資料準備
導入	１　就職までの道のりを確認し、本時の活動内容をつかむ。 ２　本時の目標をつかむ 保育園の１日の流れと体験内容を考えよう	個	○　参考資料①「保育士なり方チャート」を黒板に掲示し、意欲を喚起する。 ○　活動の流れを説明し、見通しをもって活動できるようにする。	保育士なり方チャート
展	３　保育園の１日の流れを考え、表にまとめる。	個		

開	○　資料を参考にしながら午前中の業務、昼食、午後の業務に分けて、タイムスケジュールを書く。 4　職場体験の内容を予想する。 ○　午前中、昼食、午後の大きく３つに分けて活動を予想する。		○　１日の流れが思いつかないときは、中学校の校時程を参考に考えるよう支援する。 ○　参考資料②「保育士のある日の業務」を見て時間を書き込ませる。 ○　保育園児の動きを予想し、自分がどんなことをしなければならないかを考えさせる。 ○　「～を～する」の形で、自分の考えを表現させる。 ○　あとで見直したときに自分が分かるように記入するよう助言する。 ○　生徒の意見を拡大ワークシートに書き込む。	ワークシート 保育士のある日の業務 拡大ワークシート
まとめ	5　本時のまとめを行う。 ○　拡大ワークシートで確認する。 ○　振り返りをする。	個	○　「みなと保育園の１日」を示し、自分の考えの正しさを確認させる。 ○　本時の授業態度を振り返らせる。	振り返り表

エ　授業反省

○　時間的概念が身に付いていない実態に対して、タイムスケジュールを一つずつ確認することができていた。

○　学校生活をもとに体験の内容を具体的に考えさせたことで、生徒の理解度を把握しながら進めることができていた。

○　本時のまとめとして設定したことを導き出すためには、発問で思考を揺さぶり深めるような展開が必要である。

○　生徒の実態を考え、将来につながる力が身に付くような自立活動の内容を十分に検討する必要がある。

②　国語科指導案

ア　単元名　　いろいろな標識（☆本）

イ　本時の目標

○　町の中にある標識を見て、それから分かることを自分の言葉で表現する。

ウ　学習指導過程（本時　４／５時間）

段階	学習内容及び学習活動	形態	指導上の留意点	資料準備
導入	1　通学路の写真を見ながら交通標識から分かることを発表する。 2　本時の目標をつかむ。 町の中にある標識から情報を読み取ろう	個	○　前時に学習した交通標識の意味を発表させる。 ○　活動の流れを説明し、見通しをもって活動できるようにする。	通学路の交通標識
展	3　修学旅行の日程を確認す		○　日程表を示しながら、修学	修学旅行

開	る。 ○　日程表を見ながら、いつ、どんなところに行くのかを知る。 4　空港と駅の写真を見て、読み取れる情報をワークシートに書く。 ○　自分で選んだ三つの写真から、その標識を見て自分が読み取ったことを言葉にする。 ○　まず、全体を見て分かることを、次に部分を見て分かることをあげて、ワークシートに書く。 5　標識から読み取ったことを口頭で発表する。 ○「この標識は～を表していると思います。次にこの標識は～と思います。そして、この標識は～と思います。」	個	旅行での自分の行動をイメージさせる。 ○　初めて行く場所であることを押さえる。 ○　写真を一通り見せたあと３つ選ばせるが、読み取りが難しそうな場合は他の標識に変更させる。 ○　次の発表を意識して、穴埋め式のワークシートにし、読み取る視点に沿って考えさせる。 ○　ワークシートは丁寧に書かせる。 ○　接続詞を使い、三つの標識から読み取った自分の考えを表現させる。 ○　記入したワークシートを黒板に掲示して発表させる。	の日程表 ワークシート 指示棒
まとめ	6　本時のまとめをする。 ○　そのほかの標識の意味を知る。 ○　授業の振り返りをする。	個	○　道路標識・看板・案内図などが示していることを読み取れば初めての場所や初めてのことでもなんとか対応できることを説明する。 ○　振り返り表を丁寧に書かせる。	振り返り表

エ　授業反省

○　標識・看板・表示という用語の違いを理解していないため、どの用語を使えばいいか自信をもって発表することができなかったのではないか。

○　展開では、思考を誘導した感じで、本人自らが声を発したわけではなかったので、自信をもって発表できなかったのではないか。

○　１対１の授業だからこそ、考える時間やヒントを出すタイミングを工夫する必要がある。

○　個別指導では生徒の実態を的確に捉え、生徒の思考の道筋を組み立てるような授業展開を工夫する必要がある。

【写真３　発表用プリント】

【写真４　発表の様子】

③　生活単元学習

ア　単元名　　郵便はがきと修学旅行に必要なものを買いに行こう。

イ　本時の目標

○　日頃体験することのない公共機関を利用することを通して、マナーや利用の仕方を考えさせる。

○　目的の品物を自分で選び購入することを通して、金銭感覚を養わせる。

ウ　学習指導過程（３時間）

時　間	活動内容	指導上の留意点
8:05～	健康観察をして、榎原駅へ移動する。	○　体調を確認する。 ○　安全に留意して移動させる。
8:16～8:40	JR に乗り油津駅に向かう。	○　整理券をなくさないように注意する。
8:40～	乗車賃を払い、帰りの切符を買う。 日南郵便局へ移動する。	○　乗車賃は自分の財布から払わせる。 ○　油津のアーケード街を通り、標識等に目を向けさせる。
9:00～	日南郵便局で年賀はがきを購入する。	○　種類と値段を確認させて、自分の好きな葉書を選ばせる。
9:30～	アーケード街に戻り、お店の人から話を聞く。	○　次に取り組む作品作りの説明を聞かせる。
10:00～10:30	サピア日南で目的の品物を購入する。	○　購入する品物がどのたりに置いてあるかを予想させる。 ○　質問には答えるが、最終的に自分で選ばせる。
10:30～	油津駅へ移動する。	○　出発時間に間に合うように移動させる。
10:46～11:10	JR に乗り榎原駅に向かう。	○　切符を改札に見せたあと、なくさないように注意する。
～11:25	学校に到着したら、教室で購入した品物をチェックする。	○　レシートと品物を確認させ、収支が間違っていないか確認させる。 ○　残金は収支報告書と共に保護者に渡すことをいう。

エ　授業反省

○　事前に行動内容を確認していたので、スムーズに行動できた。

○　目的の品物はいくつかの中から自分で選び、購入することができた。

○　おつりの感覚がないので、お札を出して小銭が多くなる可能性がある。修学旅行での買い物の時には注意する必要がある。

○　自由に購入してよいとなると､迷ってなかなか決めることができなかった。修学旅行での買い物に時間がかかる可能性がある。

【写真５　買い物の様子】

【写真６　支払いの様子】

３　研究の成果と課題

（１）研究の成果

○　職場体験と修学旅行に関連した自立活動および生活単元学習を指導したことにより、生徒はそれぞれの体験活動で臨機応変に行動することができた。

○　ひとりで職場体験をしたことと、修学旅行で班員と協力して自主研修をやり遂げたことで、生徒は自分もできるという自信をもち、学校生活でも積極的に行動するようになった。

○　体験学習に関連した国語科指導を、視覚教材を工夫しながら意図的・計画的に繰り返し行ったことにより、生活単元学習や修学旅行、日常生活での移動の時などに標識や看板に注目するようになり、社会生活に必要な国語への関心が高まった。

（２）課題

○　日常の経済生活に必要な計算力がまだ身についていないので、さらに指導していく必要がある。

○　日常生活で見かける標識や看板等に関心をもつようになったが、読みや意味の理解、自分の言葉で言い換えをするなどの語彙力の指導をさらにすすめる必要がある。

○　キャリア教育の視点にたって職業スキルを高める指導の充実を図る必要がある。

Ⅲ　特別支援教育コーディネーターとしての取組

１　特別支援教育の理解啓発

(1)　年３回の職員研修の実施

①　１学期

ア　本校の目標の確認とそれを達成するための具体策の検討

イ　支援学級在籍生徒の年度当初の優先課題についての共通理解

②　夏休み

ア　みやざき特別支援教育推進プランの説明

イ　知的障がいのある子どもへの具体的な支援方法および通常学級在籍生徒への個に応じた指導についての協議

③　冬休み

ア　通級拠点校通級指導担当者を講師に招いての研修会の実施

イ　組織的な支援体制作りの大切さについて

ウ　特別な支援を要する生徒の実態に応じた効果的な支援の方策について

(2)　研修報告（随時）

2　特別な教育的支援を要する生徒の実態把握

(1)　生活指導部と連携した生徒理解の場の設定

①　毎週１回、職員朝会時に、１５分間の生徒理解の時間を設定し、各クラスの様子を担任が報告し、全職員で共通理解を図る。

②　必要に応じて生徒指導主事等と指導・支援の方策を協議する。

(2)　実態把握シートの作成と提示による全職員の共通理解の推進

3　個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成等

(1)　個に応じた教育課程の編成

(2)　教科および教科・領域を合わせた指導の年間指導計画作成

(3)　支援学級担任による個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成

4　保護者との連携

(1)　保護者との合意形成（学期始め・随時）

(2)　連絡ノートや電話等を使った情報交換

5　関係機関との連携

(1)　特別支援教育エリアコーディネーター等との連携

①　校内支援体制に関わる助言

②　学習環境整備、指導・支援の在り方に関わる助言

③　進路情報の提供

(2)　特別支援学校への進学手続きに関する情報収集

(3)　私立高校見学のための連絡調整

(4)　次年度新入生に関する小学校および保護者からの情報収集等

6　榎原中学校で取り組んだ合理的配慮

(1)　保護者との打ち合わせ及び実際に行っている配慮

①　始業式（入学式）前

ア　授業について

・　５教科のうち特に苦手な教科は個別指導を行う。

・　教科によってはT-Tによる学習支援を行い、困ったときやパニックになったときにいつでも対応できる体制をとる。

・　技能教科は交流学級で受ける。

イ　日常生活について

・　クールダウンの場所を確保する。

・　教科書や教材等を持ち帰らず、学校のロッカーに保管し、自己管理させる。

② 定期テスト前後

ア テスト内容について

イ テストを受ける形態について

ウ テスト結果の処理の仕方について

エ 学期末の評価の仕方について

③ 学校行事前後

ア 自立の時間に、本人と行事の目的や内容等を確認し、本人ができる範囲の活動内容について合意形成を図った。保護者にも連絡し、本人の意思決定をフォローをお願いした。

イ 自立の時間に、行事の振り返りをし、自分で決定し行動できたことに自信を持たせた。

(2) 職員研修で取り組んだこと

① 春期休業中

ア 生徒の実態等の共通理解

イ 年間指導計画の作成

ウ 時間割の配慮の確認

② 夏期休業中

ア 南那珂エリア研修の研修内容報告説明

イ みやざき特別支援教育推進プランの説明

ウ 支援学級在籍生徒の２学期の個別指導についての確認

エ その他生徒の個に応じた指導についての協議

③ 日常的な情報交換

ア 毎週金曜日の職員朝会における生徒理解の時間に、１週間の生徒の様子や保護者の思い等について確認した。

イ 設定された時間以外にも教科担任･交流学級担任等と常時情報交換を行い、指導・支援の工夫に活かした。

7 成果と課題

(1) 成果

○ ケース会議や保護者との打ち合わせを重ねたことで、保護者とのよい関係作りができた。

○ 生徒本人の意思を確認しながら指導・支援を行ったことで本人の精神的成長がみられた。

○ 職員の共通理解の元、個別指導を行う教室環境やクールダウンの場を整備することができた。

(2)　課題

○　本校の特別支援教育の目標を解決するための組織的な支援体制の構築が不十分である。

○　個別の教育支援教育計画の内容についての共通理解と全職員による実践が不十分である

参考文献

○　特別支援教育コーディネーターハンドブック
宮崎県教育委員会特別支援教育室

○　特別支援学級担任のための「ハンドブック」
宮崎県教育研修センター　平成 27 年 3 月

○　みやざき特別支援教育推進プラン（改訂版）
宮崎県教育委員会　　平成 30 年 11 月

○　自立活動の指導の手引き書　～知的障がい教育における指導の充実のために～
宮崎県教育研修センター　平成 27 年度研究員研修

○　上野一彦／岡田智編著　実践ソーシャルスキルマニュアル
明治図書 2008 年版

○　西村宣幸著　コミュニケーションスキルが身につくレクチャー＆ワークシート
学事出版 2012 年版